



発行所
兵庫県精神薄弱者愛護協会
兵庫県育成会施設保護者協議会
〒654
神戸市須磨区友が丘1-1
発行責任者 金附 洋一郎
印刷所 交友印刷株式会社
〒652
神戸市兵庫区水木通9丁目1-34
電話 (078) 576-6161

第31回全国大会の開催

兵庫県精神薄弱者愛護協会

会長(大会実行委員長)

金附 洋一郎

第31回全国職員研究大会に向けて
大会実行委員会は、四部会に分かれて会場確保、大会テーマ「21世紀へ

向けて、副題、施設の新しい役割」を決め、兵庫らしい地方色を盛り込んだ内容にしようとの意見を出しあって、「港・神戸・21世紀をめざす風見鶏」のシンボルマークを決めてきました。

第1日は開会式、表彰式について

◆イエス団理事長、頌栄保育学院

理事長 今井 鎮雄氏

「さらなる福祉文化の世界をめざして」

の基調講演と、

◆横浜市立大学教授 伊藤 隆二氏

朝日新聞論説委員 大熊由紀子氏

コープこうべ専務理事

増田 大成氏

のシンポジストと

ホーリスティック社会福祉研究所

所長 ニノミヤ アキエ ヘン

リー氏

のコーディネートで、主題について

のコーディネートで、主題について

のコーディネートで、主題について

のコーディネートで、主題について

のコーディネートで、主題について

のコーディネートで、主題について

のコーディネートで、主題について

貴重な提言が載けると期待しているところ。

ひきつづいて、伊丹市立つつじ学園松永栄一さん他3名が全体発表をします。

*第2日は神戸国際会議場、神戸国際展示場ほか周辺会場に分かれて、早期療育、労働、人権、地域生活、強度行動、高齢化、給食、職員の専門性について16分科会をもち、全国施設職員93名が発表しフロアーと充

分な討議をしていただきます。

今回は、第14分科会を利用者部会として企画し、47都道府県から各1名の利用者が「しあわせの村」を会場に、交流会や市内見学を通じて語り合い親睦を深めていただきます。

考えています。

開催に当って兵庫愛護は一施設3名、合計373名が参加してリハールを含めて4日間の運営と、全国各地からの3,000余名の参加者を温かく迎えたいと思います。

総務部は組織、大会要綱、予算、

広告、記念テレフォンカードの準備

会場部は会場確保、看板、表彰、

大会中の昼食とアトラクションの準備、ジャズ発祥の神戸らしく「ディキシシー、ドラムカーズ」の演奏と、

大会初日マリリンバのオーブニング、

第3日は筒井宮オールスターズと三

恵園ボケットの皆さんの演奏は参加者の疲れをいやしてくれるでしょう。

なお第31回大会のテーマ音楽は、龍野市生まれ三木露風(ハルノミキ)の「赤とんぼ」が会場に流れます。

研修部は講師との交渉、分科会の決定。

参加部は参加者名簿、ハンドブックを担当してきました。

*第3日はベトナムの「ベトチャンドクチャン」の義足開発の功績で昨年、朝日社会福祉賞を受けた、兵庫県立総合リハビリテーションセンター所長、澤村誠志氏の特別講演です。修学旅行中の東海地区の短大の学生さん達も聴講に参加したい、との申出もあり大会の前人気も上々です。

国連障害年の10年が終り、続いてアジア太平洋障害者の10年がスタート、兵庫愛護結成31年の記念の年に、31回全国大会を成功させ、参加者が交流を深め、エキゾチックな神戸の街を味い明日への活力が生まれることを願います。

大会に向けてご協力下さい。

平成5年度 予算

収入

円

項目	予算額	前年予算額	増減	備考
日本愛護協会費	4,500,000	4,415,000	85,000	(115歳)
兵庫県愛護協会費	3,800,000	3,870,000	130,000	(111歳)兵庫県愛護協会費
小計	8,300,000	8,085,000	215,000	
助成金	700,000	700,000	0	神戸市民生局心身障害福祉室長 兵庫県心身障害福祉委員会 神戸市心身障害福祉委員会 兵庫県心身障害福祉委員会 兵庫県心身障害福祉委員会 兵庫県心身障害福祉委員会
本部助成金	145,000	140,000	5,000	
雑収入	100,000	150,000	△ 50,000	現金収入
雑雑金	340,442	314,850	25,792	
計	9,585,442	9,389,850	195,792	

支出

円

項目	予算額	前年予算額	増減	備考
日本愛護分組金	4,500,000	4,415,000	85,000	115歳
県社協分組金	1,350,000	1,314,000	36,000	社協分組(神戸市6組) 社会福祉協議会分組金
その他分組金	115,000	112,000	3,000	兵庫県分組金(111歳)
小計	5,965,000	5,841,000	124,000	
会費	250,000	250,000	0	
雑費	800,000	300,000	0	
部会活動費	480,000	450,000	30,000	三木地区 150,000円・加東地区 150,000円 三木地区(4区) 50,000円 加東地区(4区) 50,000円 三木地区(4区) 50,000円 加東地区(4区) 50,000円 三木地区(4区) 50,000円 加東地区(4区) 50,000円 三木地区(4区) 50,000円 加東地区(4区) 50,000円
事務費	1,200,000	1,200,000	0	事務用品・通信費・コピー・印刷・事務用品
車費	500,000	500,000	0	車費 月給 200,000円 車費 月給 300,000円
委員会活動費	50,000	100,000	△ 50,000	
広報費	350,000	300,000	50,000	広報ニュース 40号・41号
庶務費	100,000	100,000	0	
贈答費	182,000	150,500	31,500	本年贈答品(贈答品) 82,500円 × 526
雑費	100,000	100,000	0	
予備費	108,442	98,150	10,292	
計	9,585,442	9,389,850	195,792	

県愛護協会総会開かれる

平成5年度

平成5年度愛護協会総会は、四月二十三日(金)「六甲荘」で一四五名の出席者、四十二名の委任状で開催された。会長挨拶の後、来賓の祝辞で、県障害福祉部次長 森野氏、神戸市民生局心身障害福祉室室長

坂本氏、県社協常務理事 福富氏の3名におことばを戴きました。他の来賓者の紹介の後、永年勤続者52名の表彰を行った。次いで第31回全国大会のシンボルマーク応募入選者の、東山荘、山田敦氏に表彰と記念品が

贈られた。又新加入施設長と交代施設長の紹介が行われた。引き続き愛心園の福田園長を議長に選出し、総会に入った。平成4年度、事業報告、会計報告、平成5年度事業計画・予算案の提案がされいづれも承認された。又役員一部交代、特別会計積立金取り崩しについても承認され総会は終了した。

平成5年度

県愛護協会役員

- ▽会長 金附洋一郎(神戸聖生園園長)
- ▽副会長 藤田 隆治(一羊園園長)
- 大村 寛(もみじ園園長)
- 野田 稔夫(三木精愛園園長)
- 安井 正義(丸山学園園長)
- 松尾 静子(さわらび学園園長)
- ▽児童通園部会長 山中 千秋(のばら学園園長)
- ▽児童施設部会長 堺 執(三田谷治療教育院長)
- ▽更生施設部会長 明路 昌三(ひふみ園園長)
- ▽通所更生施設部会長 田中 文一(清流園園長)
- ▽授産施設部会長 小西 勝(尼崎武庫川園松の園園長)
- ▽通所授産施設部会長 三宅 康市(加古川はぐるまの家所長)
- ▽通所療養施設部会長 藤本 努(ようばく療養所)
- ▽職員部会長 山本 忠明(新緑の家)
- ▽監事 河野 博(グリーンホーム平成園園長)
- 安平 猛(ふるさと寮)
- ▽委員長 婦木 治(三美学苑苑長) 研修
- 福田 和臣(愛心園園長) スポーツ及び医療対策
- 淀 英一(さつき学園園長) 広報
- ▽事務局長 田中 昭二(神戸聖生園内)

兵庫県精神薄弱者施設保護者協議会総会・研修会

去る六月三十日、芦屋市内の三田谷治療教育院において平成五年度の総会・研修会が開催された。

午前は、前年度の事業報告と会計報告と本年度の事業計画、会計予算の審議を行いそれぞれ議決された。

本年度総会の重要な協議事項となったことは、この施設保護者協議会の規約を抜本的に改正し、会の活性化を図り、県育成会ならびに県愛護協会との連携強化を一層進めることであつた。

☆本会の新しい役割と課題

①県下一二〇有余の精神薄弱者保護者会の連合体として連絡強調を蜜に図り共同して施設利用者の福祉の向上に努める。

②福祉四団体の一員としての協力を増強する。

③県育成会の施設部会の会員としての位置付けを再確認し、育成会活動に積極的に参加する。

④県愛護協会の活動に対する協力を強化する。

・地域福祉の拠点として開放された施設づくりのために働く。

・県下施設保護者の連合体として施設保護者会の役割を研修し、目的を達成する。

・施設職員の研修活動の支援をする。

⑤施設利用者の権利擁護に取り組む



☆規約改正の要点

①理事の選出母体を県下各ブロックより入所施設、通所施設各一名を選出する。

評議員を新しく設け組織的な活動をする。

②活動の目的を今日的な課題に副うように改める。

③活動に必要な会費として会員一名あたり五〇〇円とする。

④地域福祉の充実のため精神薄弱者施設と育成会との協力体制を強化する。

☆規約改正案

本年度中に各施設保護協議会において協議し、臨時総会を開催し、最終決定をして来年度より施行する。

研修会は、午後一時より二班に分かれ、本年四月に新装された入所更生施設の芦屋翠ホームと通所授産施設ワークホームつじの案内していただき説明を受けた。

地域市民に開放された交流施設は本施設建設にあたって施設の地域開放の理念から発想されたものであり施設と地域の交流を通じて地域の理解を進める大きな役割を果たすものと期待されている。

施設見学後、当園の施設長の堺執先生より、三田谷治療院の今昔物語施設運営にかける情熱のさまざまに興味深く講話を拝聴し、その感動に時間を忘れる程であつた。

この会のために全面的なご協力を頂いた堺園長はじめ職員、利用者の方々に厚くお礼申しあげます。

(施設保護者協議会会長 原 辰雄)

平成五年度

「愛護の集い」のお知らせ

○日時 平成五年九月三日(金)

午前十時～十五時

○場所 のじぎく会館 大ホール

○内容 実践報告・映画・講演

施設保護者協議会

設立の経緯

昭和三十一年に兵庫県手をつなぐ親の会が結成され、わが子のための療育施設が是非ほしいという強い願をこめた運動によって昭和四十二年には県下に十八施設が設立されました。(児童施設九カ所、児童通園施設五カ所、更生施設二カ所、授産施設一カ所、重心施設一カ所)

昭和四十三年、これらの施設で生活する精神薄弱児の福祉向上を図り、生活と権利を守るために「兵庫県精神薄弱者育成会施設保護者協議会」が県育成会を母体として設立された(当時の加入施設は二十一カ所)

その後の事業、活動としては次のようなことを実施し、今日に及んでいる。

①県愛護協会の機関紙「愛護ニュース」の発行を助成する

②一泊研修会の実施

③施設入所者互助会の設立

④愛護のつどいの共催

⑤ひょうご・ゆうあいスポーツ大会の後援

⑥4団体賀詞交換会の開催

⑦県育成会事業の推進

⑧県愛護協会の活動の協力

会場部うら話

あと開会まで一ヶ月あまり、会場部は大会の裏方に徹し大会が成功するよう努力を続けています。

開、閉会式は国際展示場二号館(写真A)で分科会は国際会議場



(写真A)

(写真B)を中心の一部商工会議所を使用して行います。ただ第十四分科会(利用者本人が語る)だけはし



(写真B)

あわせの村(写真C)を使って泊まり込みで行います。今まで準備の段階で色々な事柄がありました。一つ二つ裏話をさせて頂きます。俗に「食べ物の恨みは恐い」と申しま

研修部奮戦記

九月二十八日の開会へむけていよいよ、六十日のカウントダウンに入りました。頭の中は、大会スケジュールとイメージ、そしてマニュアルが錯綜しております。

原稿回収が遅々として進まなかったですが、ようやく九割の回収が出来ました。原稿校正と印刷製本への手順、県内スタッフ選考とスケジュールの検討など、過去31回の大会もこれ程大変なものであったのだろうかと思われ、青息吐息の状態になっております。今回の大会は、基調講演方式はもとより、シンポジストも福祉の各分野でこれ以上の人はいないのではと思っております。全体発表者も「人権」「地域生活活動」「システム」「QOL」とメインテーマを意識し、逆指名をさせてもらいました。必ずや参加者全員が、鋭いインパクトを受けられるものと確信します。

分科会は「福祉職の専門性」や「強度行動障害」「療育のシステム」

「文化活動」などに人気が集まっております。今大会の新しい企画の「利用者、本人が語る……」分科会は各県一名を原則に案内しています。が、全国から申し込みが届いております。

大会第三日は、時の人とも言うべき、澤村誠志先生の特別講演です。先生の講演を拝聴する機会を得ることだけでも、大会に参加する大きな価値があると思います。

会場が六甲山を背景としたベイエリア、ポートアイランドの国際性に富んだ場所だけに、参加者が施設職員としての新しい役割のイメージ作りが出来ればと思っております。

研修部の大会コンセプトは、「来てよかった」「参加してよかった」「充実を感じた」です。兵庫大会が二十一世紀へむけての新しい示唆と方向性、そして神戸から全国へむけて新しい風を感じてもらえるようにすることです。

頑張りましょう大会開催へむけて。
〈部長 婦木〉

参加部準備状況

全国大会が近づいてきました。一番悠長にかまえていました参加部も、全国から続々、参加者の名前があがってきました。はたして何名の参加者があるのか、三千名は越えると思っておりますが……

今まで何度も全国大会に参加しておもったことは、それぞれの開催県の熱烈歓迎ぶりです。ふと、大会中開催県の施設利用者達はどうなっているのだろうか、心配になることがあります。

兵庫大会を開くにあたって、兵庫県はスマートに合理的にいきましようと思案しました。

一 プロにまかせることはプロに
一 コンピューターにたるところ
一 はコンピューターに
一 あまり荷重なサービスはしないでさりげなく

一 余分な人員配置をするより、大会の中味の講演や発表を聞けるように等々……

さて、参加部の一番の課題は、分科会のふりわけです。これはコンピューターにまかせるたにしました。何とかうまくいくことでしょう。

参加者名簿がはたしているのか、いらないのか、受付で一人一人チェック

々々準備中



どうするのか、第一日目、二日目の弁当、合せて約六〇〇〇食、まずこれをどこで調達するのか、九月下旬は食中毒の一番危ない季節、これをどうするのか、又予算が六〇〇万円（一食一、〇〇〇円）で皆さんに満足できる弁当があるのか等々。弁当一つ取ってもケンケンガクガクの議論、試食の結果神戸らしい弁当として〇〇と〇〇が決定、予算もかなりオーバーですが、そこは強心臓で値切り予算内でとまあこのように一つ一つ片付けて行っています。



(写真C)

又昼食時のアトラクションはどんな演し物が良いのか、これもケンケンガクガクの議論の結果神戸らしい演し物としてディキシラ・ンドジャズに決定というような次第です。

おりしも大会日程中は神戸でアーバンリゾートフェアの開催中、研修の合間には大いに楽しんでもらいたいと思います。

—夏の神戸夢体験—

〈部長 河野〉

特集、全国大

総務部準備状況

「ネットワークひょうご」県内一二の精神薄弱児者施設の要覧がいはやく脱稿しました。

神戸明生園河嶋良男園長の手でまとめられ、三、五〇〇部の印刷を予定しています。

大会資料、三、五〇〇部は研修部長、三美学苑婦木治苑長を中心に研修部で全体会、分科会発表者の原稿が校正、編集され、第一回分七月七日印刷にまわされました。

あとは事務局長田中昭二氏により、再校正され月末には脱稿の予定です。

協賛広告は、ひふみ園明路昌三園長のお世話でまとめられています。財政基盤の弱い愛護協会への御理解とご協力を心より感謝します。

大会総会の組織については三田谷治療教育院堺院長にお願いし、三〇〇名を予定している大会要員の割りふりについては愛心園福田和臣園長



中心に検討しています。

前しいのみ園長中川透氏にお世話になった風見鶏のシンボルマークは既に全国に拡がり、事務局の大変な仕事を引きうけて下さった北川真希さんによってコンピュータで、参加者名簿が作製されています。

名札は既に一羊園の利用者の手で作られている。

分刻みの大会スケジュールを追っての「係員ハンドブック」はこれからです。

七月十五日全実行委員、五〇名が大会会場に集まり、重ねての検討を加え、いよいよつめの段階に入りました。二十二日には日本愛護より来県され、「仕事」はこれからです。

〈部長 大村〉

クする必要があるので、ないのか、という大胆な改革案まででしたが、結局名簿も受付も従来通りとしました。

参加証については、今まで割に凝った手がきによるチケット方式でしたが、弁当引換券などにならない、とこれはバツサリ合理化し、ハガキ大4分割のコンピュータ化を取り入れることにしました。

参加者の名札については、私ども一羊園が一年前から準備をはじめました。和紙にシンボルマークをはり一枚一枚手づくりで、これは素朴な名札ができました。

観光や宿泊に関しては、全面的に業者に依頼し、我々はノータッチでいけるようにしました。勿論、道案内やお店の紹介等お手伝いするつもりです。今大会は宿泊がホテル型式が多いので、それぞれ夕方より、神戸の町を散策していただき、おいしい店等さがしていただければと考えています。

なにはともあれ、参加していただいた方々が、よかったなあとおもっていただけの大会に、我々も、あわてず、さわがずできたならなあと、皆様の協力をあおぎつつ、おもいます。

〈部長 藤田〉

施設紹介

〈精神薄弱者通動寮〉
社会福祉法人 もみじ会

たかくら通動寮

所在地 揖保郡新宮町能地二〇七一

六八

電話 〇七九一一七五―四五八九

開設 平成四年四月一日

定員 二〇名

施設長 松本茂廣

職員 三名

沿革

たかくら通動寮は社会福祉法人もみじ会が母体となり、平成四年四月一日に事業が開始されました。

法人内で四番目、通動寮としては兵庫県内で四番目の施設として産ぶ声を上げ、一年を迎えました。



支援、援助方針

一、生きる喜び、労働の価値、感謝の気持ち、個人の尊重を基本原理とし、能力、適性を伸ばし、希望を抱かせ、活力ある生活を保障する。

また、利用者が社会規範を身につけ、社会人として、義務と責任と自由を理解し、他者と共存する適応性を身につけるよう援助する。

二、日常生活の中で、金銭管理能力を確立させる。

買物指導、金銭授受、記帳や計算能力を高め習慣化を図る。

また、金銭の価値と貯蓄の重要性を理解させ、自活に備える。三、社会参加の機会を多くし、社会化を図る。

地域の人々と接触する中で、協同、責任遂行、奉仕、勤労等の重要性を理解させるよう援助する。

四、健康を第一義とし、自らが健康管理、衛生管理ができるよう援助する。

特色

「仲よく、助けあい、明るく、素直に頑張りますしょう。」をモットーに、多くの人々から愛され、尊敬される人になる為に、日々、精進しています。

施設紹介

〈精神薄弱者通所授産施設〉
社会福祉法人 新緑福祉会

神戸市立ワークセンターいわや

所在地 神戸市灘区岩屋北町六丁目

一ノ四

神戸市立東部在宅障害者福祉センター内

電話 (〇七八) 八八二―五七一六

設立 平成五年四月一日

定員 六〇名

施設長 福永昭三

職員数 十三名

沿革

神戸市立ワークセンターいわやは社会福祉法人新緑福祉会が運営する五番目の施設として、また、神戸市



で初めての公設民営型の精神薄弱者通所授産施設として開設されました。施設は、JR灘駅南口前の十二階建て建物の三階に位置し、交通の便もよく地域に開かれた、人間性豊かな施設づくりを目指しています。

また、周辺は総合整備され、隣に移転、新築された神戸市立青陽東養護学校とは、教育、民生の枠を越えた、交流・連携をはかっています。施設の処遇方針

入所者個人の健康状態に応じて、社会生活をおくる上での基本的な態度を養うよう、愛情と根気を持って援助します。また、労働の喜びを通して積極性と責任感を培い、社会人として自立できるよう努めます。

一、基本的な習慣を確立させ、規律ある生活を通し、健康で明るい生活態度を養い社会生活に適應できるように指導援助します。

二、仕事への意欲と自信を形成し責任感と忍耐力を養い、職業人としての態度と技術の向上を図ります。

三、社会的自立を目指し、各種企業団体等への実習を実施します。四、地域の理解を深めるために、諸団体との交流やボランティア及び実習生の積極的な受け入れを行います。

施設紹介

〈精神薄弱者更生施設〉

社会福祉法人 阪神福祉事業団

阪神福祉センター
ななくさ新生園

所在地 西宮市山口町下山口一六五

○番地三五

電話 ○七八(九〇三) 一六一三

開設 平成五年四月一日

定員 五〇名

施設長 富士平賢二

職員数 三〇名

沿革

近年、入所更生施設においては、利用者の重度化、多様化さらに高齢化の進む中で、医療機関と密接な協力体制が重要なこととなってきている。このような人達が利用可能な施設として、ななくさ新生園は、昭和四五年四月一日に開設した。ななく



さ育成園に続いて阪神間の六市一町で設立した阪神福祉事業団の五番目の施設として、西宮市北部のこの地に開設し現在に至っている。

開設運営の方針

精神薄弱者福祉法の理念及び法人の運営方針に基づき、利用者の特性に合わせた環境とサービスを提供するとともに、医療的ケアを必要とする重度の人達を受け入れ、阪神間六市一町の福祉の増進を図る。

処遇方針

一、利用者の処遇サービスの向上

施設における処遇を出来る限り家庭環境に近づけるとともに、施設機能の専門性を生かした処遇目標を設定し、利用者一人ひとりの特性に応じたサービスの提供に努める。

二、利用者の健康管理の推進

隣接している診療所と密接に連携を保ち、疾病の予防・早期発見等医療的なケアの充実に努める。

三、施設の社会化と地域交流の推進

夏祭り、文化祭等の行事を開催し、地域住民との交流を図り、施設への理解を深めてもらうとともに、緊急一時保護事業、精神薄弱者生活能力訓練事業を実施し、在宅福祉に寄与する。

四、利用者の自立更生の促進

作業、療育活動及び買物、散髪調理等の社会訓練を通して、社会自立に向けての訓練を促進する。

施設紹介

〈精神薄弱者通所授産施設〉

社会福祉法人 福成会

塚口福成園

所在地 尼崎市塚口本町六丁目十二

番十五号

電話 ○六四二七二九二一

設立 平成五年四月一日

定員 五十名

施設長 伊藤博美

職員数 十四名

沿革

塚口福成園は、尼崎市内で最初の精神薄弱者通所授産施設として、又当園の設立母体である社会福祉法人福成会としては、平成二年六月一日



に開設した精神薄弱者通所更生施設「清流園」に次ぐ、第二番目の施設として、共に社団法人尼崎市精神薄弱者育成会の資金協力を得て開設いたしました。

施設運営の基本理念

当園は、ノーマライゼーションの思想を基本に、障害を負った人の自立と共に、すべての人が共に生きることが出来る共生社会（生きがいのもてる社会、自立できる社会、参加できる社会）の実現を目標に運営します。

処遇方針

一、利用者の可能性の追求を基本姿勢とし、その潜在能力の開発による障害の克服・残存能力の活用、必要な作業補助具の開発及び設備の改善等を推進し、個々のパーソナル・ケアの徹底を図ります。

二、各種の利用者に対する訓練指導は当施設での適応よりも、施設退所後の地域社会での生活環境に對する適応性の獲得を本来の目的とします。

三、利用者各人毎に、ケア目標を設定し、その達成に向けて、施設、家庭、関係機関が相互に有機的な連携を保ちながら推進します。

地域交流

障害を負った人が、自立を達成するためには、地域社会との協力が不可欠との観点から、まず最初に障害者であることからの理解を深めるために、施設への見学者の受入れ、施設への作業訓練の紹介、施設機能の地域への開放を積極的に推進します。

施設紹介

〈精神薄弱者通所授産施設〉

社会福祉法人

三田谷治療教育院

ワークホームつつじ

所在地 芦屋市楠町16-15

電話 0797(22)7044

FAX 0797(22)7703

開設 平成5年4月1日

定員 三〇名

施設長 滝本豪徳

職員 9名(うち指導員5名)

沿革

昭和五三年より「芦屋市手をつなぐ親の会」が芦屋市の援助を受けながら地域の障害者と共に活動を行ってきた無許可作業所「つつじ共同作業所」の更なる発展を期し法内施設化を推進する中、同芦屋市内の社会福祉法人三田谷治療教育院(昭和二十七年法人許可)がその事業を継承し発足することになった。

支援、援助方針

一、施設内外の関係者の理解、協力を求めノーマライゼーションの理念に従って利用者である知的障害者自身の本人参加、自主選択および自己決定を尊重しつつ社会的自立、参加及び自己実現に必要な援助プログラムを作成実行していく。

二、雇用されることの困難な障害者に必要な訓練と働く場の提供を通じて一般就労の可能性を探りつつ、より重い障害を持った人達のための中長期に渡る福祉的就労の場ともしていく。

三、利用者が毎日楽しく通ってこられるように明るく楽しい施設づくりを目指す。

四、施設にありがちな集団処遇に陥ることなく、事例研究等を進め個々に合った援助プログラムを作成する。また個別援助の充実の為に他施設他機関との連携協力を重視する。

五、通所施設は施設と家庭との密接な連携協力が不可欠である。利用者の生活の質(QOL)を向上するため多様な家族との関わりを重視する。

六、地域の在宅障害児者の家族ニーズに対し相談助言等の援助を進め必要に応じ地域の社会的諸資源の活用を図りつつ地域療育システムの形成に貢献していく。



施設紹介

〈精神薄弱者入所更生施設〉

社会福祉法人 揖南福祉会

サルビアの家

所在地 揖保郡揖保川町黍田四三〇-七

電話 〇七九一(七二)六〇六〇

開設 平成五年四月一日

定員 三二名 内重度二〇名

シヨートステイ四名

施設長 安井一美

職員 二〇名(うち指導員十一名)

沿革

子ども達の将来を考え、昭和五十二年、小規模作業所を親の手で作ろうとの動きが出、資金づくりの運動が始まる。

昭和六十一年社会福祉法人

揖南福祉会認可、

昭和六十年通所

施設サルビア園竣

工、開設

する。

その後、

親の願い



で、平成二年入所施設建設計画、苦難の末、平成五年四月、サルビアの家を開設した。

特色

「明るく、仲良く、元気よく」の園訓のもと、生活指導、職業(作業)指導を行い、更生に必要な諸能力を培い、働く喜びと生き甲斐を持ち、社会的更生ができることを目的としています。また、施設機能を地域社会に開き、ボランティア、老人会、婦人会、小中学校との交流を積極的に進めています。最近の特産製品のお菓子作りの取り組みに努力しています。

処遇方針

一、利用者のニーズに応えたサービスを提供し、自立を促進します。

二、地域の核として、利用者の人生創造、研究交流連携に努めます。

三、小学校に隣接する施設として、その相乗効果を生み出します。

四、福祉的就労を強化すると共に、園内作業(割り箸、クッション、手芸、木工、農園芸、お菓子作り)の充実に努力します。

五、請負作業として水道企業団水源

地公園の清掃に奉仕の汗を流し

ます。最近、地域清掃で村の人

に感謝されています。